

# バストス週報

第1043号
昭和45年
4月27日
発行
Diretor Koiti Mori
Redator Shion Oda
Rua Pres. Vargas 188
C. Post. 112
Fone. 40 BASTOS
C. P.
Anual N. Cr. 2 18.00
Adian.

霹靂 17

## 千慮の一失

去る三月十一日米国フロリダ州、ケネディ宇宙センターから十万人の見物に見送られて第三回の月面到着宇宙船アポロ十三号が打ち上げられた。ところが、それから二十時間後アポロ十三号からビューストン地上管制本部に到着した中間報告によると、最下部二段ロケットのエンジンが故障したので、機長丁・ラベル大佐は適当な処置をとつて中段の燃料をふかして、地球圏を一気に脱出したということである。ところが十四日へ出立後推定六十時間(地球より三十二万キロ、月面まで八万キロの空間で、船内にガスの噴射による爆発が起り、酸素圧力が急減、遂にゼロに至る)と報告して来るので、地上管制本部は青くなり、月面着陸は中止して、月の裏面をまわって地球上に帰還するよう命令した。

三人の宇宙士は、月面到着の酸素を用いて、命令通りのコトヌエ帰還することとなるが、予定通りに行けば、十七日正午中部太平洋に着水するだろうとのことであつた。

アメリカは昨年アポロ十一号、十二号とつづけて打ち上げ、両回とも大成功している。三度目は専門家に構えて萬全を期している苦だが、何しろ前代未聞の冒険なので、機械類と重どもいかに着工でても不時の故障がないとは云えず、あまり安心していると、宇宙飛行士を積んだまま、どこかえ飛翔しまてしまふのはないか。などといふ、全然科学性のない妄想におびえたりするのである。アポロ十三号は、いざ出発という移説のみに入つて、一人の飛行士が急病で代理が搭乗することになつた。そのことを新聞で知つて、縁起を算ぐわけではないが、何か心にひつかるものがあつた。打ち上げ二十時間でロケットのエンジンに故障が起きたという報告、しかし、これは適宜の処置で解消されたが、その後四十時間たつと、電気装置に故障が起り、酸素圧がガス爆発と共にゼロになつた。というから、これは非常時である。三飛行士は訓練されているから、万全の処置



### OFICINA de BATERIA DUREX

Agora em Bastos Oficina de Baterias Durex.  
montagem reforma e novos Cargos de terminais tudo de bateria

Rua Duque de caxias Nº 283  
em frente de CASA KOMODA  
De Orlando Roveri

このたびバストスにバテリアス「ドレックス」ができました。

レフォルマ 又は 新品 充電、据付、等一切の蓄電池の御用に応じます。ドッキナカシヤス街 Nº 283  
(小茂田商店前) オルランド ロヴェリ

をとり月面着陸船の電気をリードし、室内の酸素を用いて生命の安全を保つてゐるが、此の酸素は帰還用のものであり、これに故障が起つたら窒息してお院になってしまう。勿論充分な計算により窑機な操作の出来る人たちであるから、心配はなかろうが、ちよつとでもこの計算に狂いがあつてはならぬ、のつびきならぬ帰還である。月に届かないうち帰還の体勢がとれることは、高速度だからだそうだが、月の引く月面をぐるりと半周することは、月の引力を利用して速力を調整するのであろう。

14 meses garantia  
Nova Ona

まことに大自然の中を行われるサーカスの曲乗り見たいなもので、科学の力とはいえ微妙なものであつた。そういう曲芸が出来るのに事前に怎様の落度があつたのか、そういう危険性を包含するもののか、判断は出来ないが、誤差というものの脅威のいかに酷烈なものであるかを知つたわけである。

尚アボロ十三号は約一億ドルかかつてしると聞いて尚更この感を深めた。

十七日夜

### 亡命不許可

外国使臣を拉致して、その身柄と引替に国事犯の釈放を強要するのは、敵ながうあつぱれな智恵だが、たとえばラシルからは過去二回、破壞暴力犯をメキシコに追放している。メキシコはその亡命を認めているわけだが、世界中どこの国でも政治的亡命を認めないとしたう、どういうことになるだろう。この案はアルゼンチンから提唱されたものだそうだが、各國共その時は一笑に付したが、なんだん情勢が緊迫すると、再検討せずに居られなくなるようだ。

亡命を認めず、入国を禁することになると、亡命者たちは官憲に逮捕されることになり、外國への亡命はきかなくなる。

従つて外国使臣を誘拐して人質にとつても効果がなくなる。自然誘拐や拉致はなくなるということであろうか。しかし、海外に亡命するというケースは、外に例はいくつもある。それらの人かどこえも亡命できないとする、これ又人道問題になつて来て、各國の憲法や法律に照し、画一的な行動はそれないであろう。

これは飛行機乗取りの話だが、ピストルや短刀を持つたものが飛行機に乗り込む時、X光線のようなもので探知できなものだろうか。 ブラジルからメキシコに亡命させたのは、ブラジル政府からメキシコ政府へ諒解を求めてあるから、合法的な処置である。しかし、日航よど号の場合、全連赤軍派の面々も、北朝鮮入国査証も入国許可証もとつてないから、非法入国である。北にその気があれば、入国不許可で追放できる筈だが、しかし、金日成側では、いい鴨がとびこんで来たものと、この鴨を~~跡~~に将来何かに利用するつもりであろう。

北米と事を構えて一步も引かず、堂々威を張る北鮮のこと、戦力もない、弱い日本に一つの貸を作つておく廃存だろ。だけの申合せで、キュー・バヘ直航という極め手がのこり、どこえも通用する名案

ではなくなる。しばらく空腹にまかせるより妙案はないものか。  
多少時間はかかるかも、乗客が乗り込む時、「一人一人の手荷物をレントゲン式に調べるより手はあるまい。凶器らしいものの疑いがあれば、警察官が立て立ち合い検査をするようにすれば、武器はもうござらないであろう。

### アボロ十三号南太平洋着水

世界中の人々から無事帰還を祈念されていたアボロ十三号の三宇宙士は、必死の操作で、月をぐるりと一周し、地球向の軌道にのつて帰還をはじめた。途中でガスが洩れたり、室がせまいので、交代に休んだり、飲料水をぎりぎり節約したり、電力も節減したり、あらゆる困難に堪えて十七日午後六時三〇分南大西洋に着水、無事母艦イオウ島号に収容された。

第三回月訪問の壯挙は逸したが、宇宙学に一つの大きな研究の歩を印したことには、又と得がたし収穫といわざるを得ない。

十七夜

### 五月俳句おしらせ

日時 五月二日(第二日曜)午後七時半

会場

系 音 居

都合により十日延期

兼題

クリスマス(ヤカチロン)

秋 翌 月 一切 母の日

外に席題

会員はこをつて御出席下さい。

又同好の方の登入りを歓迎します

バストス仙人掌社

### ヌイブライク 学校

ひ る と よ る

これまで早川靴店のとなりで授業していましたが都合により石橋通之進宅ですることになりましたからお知らせします

石 橋 二 ち 手

Escola de Maquina de Escrever

## 最初の人は勇気がいる

三月上旬、宮崎写真館主北眠氏は、盲腸炎手術のため一週間程入院していたが、入院中病院のありがたさを身を以て知り、心中大いに感ずるところがあつた。看護婦さんなど、医局の人が皆親切であることを、又主治医の坂口・坂口一の手書きはきした態度など、一々心を打たれたという。

退院してから病中見舞をしてくれた人達に御返しをすることも考えたが、香薫人返礼を取りやめ、金一封を文簡を通じて贈呈することにした。ようやく御礼廃止を実行する人があらわれたわけだ。実は、二三の俳人が集つた時、虚礼廃止の話が出た時、病気見舞・全快祝組上にのぼつたのだった。友人知人たちが入院している。誰それが交通事故で悪い見舞に行き、見舞品へ金品を贈るのは友情だから当然として、だからといって全快したから、それ相応の御返しをしな

くてはならぬと、きめてかかるのは重苦しい考え方だろうと思う。入院費、医療代、其の他で相当負担がかかっているのだから、「おかげでよくなりました。御心配かけてすみませんでした。ありがとうございました。」だけよいように思う。何か持つて行かねば御見舞にはならない。何かプレゼントテレは、單なる習性であろう。そういうことは、なるべく廃した方がよいという議論をやつたが、結局実行する人が勇気をもつて善処しなければならない。前記宮崎氏の話は筋が通っていて、

### 逆 移 住

近頃、ブラジルから日本へ、技術を習得するために帰る人があるようだ。自分自身につけて、ブラジルに帰つて来ると、ブラジル工業へ工芸界にも貢献することになり、その本人も、下葉ではなく、よいカルゴを得ることになるので、大変結構な話だと思う。

1970年3月分 バストスの気温と降雨量 フラタク製糸会社測候部										
項目	気温 °C	湿計 °C	湿度 %	最高 気温	最低 気温	降水量 mm	風向	天候	雲量	
1	25.0	21.0	65	22.0	19.0	61.5	N	○	5	
2	21.0	20.0	89	26.0	19.0	44.9	E	○	10	
3	26.0	22.0	66	30.0	20.0	86.6	E	○	7	
4	24.0	22.0	81	29.0	21.0	61.6	S	○	8	
5	27.0	24.0	74	33.0	20.0	61.6	E	○		
6	29.0	23.0	60	34.0	20.0	61.6	N	○		
7	22.8	24.0	67	34.0	20.0	61.6	N	○		
8	29.0	25.0	67	33.0	20.0	61.6	N	○		
9	27.0	24.0	24	29.0	22.0	61.6	N	○	7	
10	22.7	24.0	74	30.0	21.0	61.6	N	○		
11	22.8	25.0	74	34.0	22.0	61.6	E	○		
12	22.8	24.0	67	32.0	20.0	61.6	N	○		
13	28.0	25.0	74	31.0	22.0	61.6	N	○	7	
14	24.0	22.0	81	29.0	21.0	61.6	E	○	8	
15	29.0	24.0	60	31.0	20.0	19.8	E	○	5	
16	23.0	22.0	91	31.0	21.0	13.5	E	○	8	
17	22.0	21.0	90	30.0	20.0	10.4	W	○	7	
18	25.0	23.0	81	32.0	22.0	10.4	E	○	8	
19	23.0	22.0	90	30.0	20.0	10.4	E	○	10	
20	28.0	24.0	67	34.0	20.0	10.4	E	○	5	
21	30.0	24.0	55	35.0	22.0	10.4	E	○		
22	32.0	24.0	45	36.0	20.0	2.9	E	○	2	
23	30.0	24.0	55	35.0	20.0	5.1	E	○	2	
24	30.0	24.0	55	35.0	20.0	5.1	E	○	2	
25	26.0	20.0	63	28.0	19.0	1.9	E	○	7	
26	23.0	19.0	63	33.0	17.0	1.7	E	○		
27	27.0	22.0	59	32.0	18.0	1.8	E	○		
28	27.0	22.0	59	34.0	18.0	1.8	E	○		
29	29.0	22.0	48	35.0	16.0	1.6	E	○		
30	29.0	22.0	48	34.0	18.0	1.8	E	○	3	
合計	825.0	705.0	217.0	989.0	618.0	170.7				
平均	26.6	22.9	6.7	31.9	19.9					

はノイローデなどにかかるて新来青年が  
帰りたがつてゐる者もある。こうした者は、  
かりに日本に帰つたところで、親も

とや親戚のご厄介というものであろう。  
ところで、最近入手した一つの類話には、ちよつとほのぼのとした感じを催す

ものがあつた。

ウジミナス製鉄に入所した新来の一青年があつたが、言葉の関係やその他の事情で帰国を思ひたち、一年ばかり聖郊外で養鶏などをして、昨年早く日本へ帰つてしまつた。

実家がよかつたのであろうか、旅費なども自分もつてあつた。そして、今は大阪附近で専門工場に入り、かなり好遇を受けているといふことだ。

ところで彼はウジミナス入所前にブラジル生れの二世娘と結婚して、一口

に二世娘といつても色々あり、よい方の意味で日本色の濃い、すなおな娘だった

ので、夫の実家からも好まれていたらしい。

ところで、話はこれからだから、ゆっくり聞いて頗きたい。その娘、ではない嫁さんには長兄がある。貧素な暮らしの中で、老母を養い、一弟二妹を成長せしめた老母と、ソルテロンになつた兄だけだつた。財蓄もなく、大して経済力もないその長兄は、遂に老母も亡くし、全く老いたソルティロになつてしまつた。

コロニアには、そういう境遇、境涯にふわふわと流浪じて、多くの同期がいるのである。働けるうちは、何とか我を張つて一人暮しをするが、そのうち病気が出たり、働けなくなつて援護会に現われたりする人も多くなる昨今である。日本に寄んだら、どうだろうといふ相談をしたうしい。切々とその旨来信した。

長兄としては男の自負がある。青年の時亡くなつた父の墓がある。ついに二、三年前まで孝養を尽した亡き母の墓もある。両親の墓を守るのは俺公の役目だ。そして、俺は父母の眠つてゐる第二の故郷に自分の骨も埋めるつもりだ、外からいられぬ世話を焼くなと頑張つて、いたが、その孝養の證み通つたような赤心は、しかし、彼流考へる清しさであつて、生活の荒波は小止みなく、さいなんくる。帰國するなう今が絶好のチヤソスだ・廃残ではない・落伍ではない。再生だ・蒔き直しだと、彼流に悟つたか・或は友人の忠言であつたか判らぬが、心境一変し

# あすなろ合唱團 演奏会

五月三日(日) 夜八時より

プログラム 二十一曲

団員三十五名

場所 バストス綜合会館

第一部 世界のうた  
第二部 ブラジルのうた  
第三部 日本のうた  
指揮者 宗像基

プログラムは当日会場で御渡し致します。

主催 バストス曰伯文化協会

妹夫婦の呼んでくれる大阪へ赴く決心をしたというのである。

「ブラジルとちがつて今、日本では隆々たる大景氣である。働き口にかけつけ、いささかも困るような事はなく、裸一貫かうけつこう出発できる。彼はブラジルの百姓には適せず、就職にも不適格な個所がないでもないが、そういう一般的な好運に恵まれずにいたが、日本は分野がひろい。経済伸長の新世界だ。どこへ飛び込んでもさしつかえない。ただ彼がこれまで夢に見ていたユートピア的な心地を脱して、実世界の荒海を泳ぐたくましい心構えであつてほしい。彼は志を立てて渡伯したといつより、父母の長子として十五六才の時つれて來られたという境遇であり、父の死後全く好運に見はなされて、自分の意志で世渡りをしたことはなく、世の潮流に流れ漂つたにすぎない。多くの人がそうであつたろうが、多少でも好運にさおさせて、どうにか独行している。ブラジルは山がひろく奥行が浅くて、くらしよい大国ではあるが、その大国の中では不遇をかこつ人もある。出来るなりブラジルで再出発の決心が出来ればよいが、彼の場合は、これまでの足跡にこだわることなく、妹夫婦の迎えてくれる日本の地に生活の営みを拓く」と方が幸福

であろう。  
並移住も時にとつて、悪くはなく、人  
、一人の運命の開ける鍵かも知れない。

糸

音

## 御しらせ

### あすなろ合唱団の宗像先生

聖市 角 藤 忠 雄

五月の初旬こちらの「あすなろ合唱団」がバストス市へゆき、演奏することの実現されたことを衷心よりおよろこび申上げます。

実は指揮者宗像先生とは、小生着聖以来親しく交わりをして頂き、良き師として今日に及んでおります。私も「あすなろ合唱団」の後援者の一人として、いつも励げます。

宗像先生は戦時中、潜水艦長海軍大尉として実戦に参加中、終戦となり、帰還されて、ある大戦当時の混沌とした時に生き残つて帰りし戦場の同僚達は絶望の果てに自分の目前で、ある者は日本刀で腹を切り、ある者はピストルで胸に一発を打ち込み、最後を遂げたということです。その時の先生の心中は何を求めたか、それは戦争の罪悪を知り、残る生涯を世界平和のために捧げようと、彼は神学校に学び、伝導師として五年間日本に於て伝導され、一九五八年海外宣教師として来伯された。

ただ一つの教会に止まる事なく、どんな他宗派の人たちからでも招聘を受けければ、どんな巡に行つてもお話しされる平民教師です。先生には他の牧師の様な勿体ながつた臭みが少しも感じられない。多くの人達より好感がもたれる。

先生には、まだ外にもいろいろなお仕事をもつておられる、その中の一つとして、へあすなろ合唱団」を育てて今年で十一年になります。

恰度昨年は十周年記念会をもつた時に私しも参加しました。その中には俳人の方、亀井杜雁夫婦、星野瞳さん達、この人達も合唱団創立当時より物心両面の援助されて来たことを聞かされました。瞳さんの長女は最初よりコーラスの一員として活躍、今は二世の男女もあり、年数は入り交じつて居ります。合唱団のメンバーは戦後日本から来られたが、二日とも超高員、第一部は世界の民謡十曲以上、二部はヘンデルのメサイア(殺世主)キリストの誕生と受難と復活、この曲に取り組まれて二年有余に及んで練磨を積まれたそうです。是非この合唱をお聴き下さる様お奨めします。御期待下さい。

○養鶏家、養蚕家の各位に御知らせ致します。御承知のことと存じますが、

新法令によりインフレガードを雇つていろ方は、レヂストロダインフレガードへ帳簿)を備えなければならぬことになりました。

○その帳簿にイブラ又は、シンジカールを添えて御持参下されば、ツパン市、ミニステリオ、トラバーリヨ(役所)へ登録する手続きは、当事務所で代行いたします。

○現在使用人が居らぬ方も、その帳簿を備えておくと、不意の場合にも役に立ちますから、準備されるよう御すすめいたします。

○尚、インフレガード(使用者)には必ず労働手帳を取得するように御注意下さい。労働手帳を取得するには、

○男なら、月日入り写真3X4三枚。

○セルチトンデ カザメント。

○セルチフィカード、レゼルビスタ。

○尚、詳しいことは当事務所へおいでになつて説明をお聞き下さい。

○右を用意して市役所 水道課(州立中学校下)に行けば無料で取得できます。

三枚

○尚、詳しいことは当事務所へおいでになつて説明をお聞き下さい。

○バストス市、ブ・ヴァル、ガス街一八九番

小林

茂庭

# 法律事務所

電話

一一〇〇五

石川

# テレビン・ール 各種

## ステレオ 電気蓄音機

ラジオ・ピアノ・金庫・タイフライタ

扇風機(ワインチラドール) ラジオ・トランジスタ

冷蔵庫

(ジェラディラ) センダクマキナ

その他、何でもあります。

# Eletro Radio Oriente

## 各種家庭用電気器具類一切

本店

ガルサ市・ルア・エイトロペントアード一一一一番

八卷兄弟商会  
ガルサ電話 ピヒニ番・郵函二七九番

御注文は バストス市 ヴツキ・デカシヤス街

# 宇佐美宗一

バストス電話 店一四六番・自宅一二五番

海外に光を掲げし人  
前田常左衛門伝

彼の兄利作の事業はついに行き詰つて倒産し、最悪の事態となつた。そのため父は、その保証人として債務の責を負わなければならなかつたのである。それのみならず、迷惑はこれの連帯保証人である他人にまでおよんだのである。「我々身近な者で片づけよう、他人に迷惑をかけることができるものか」と、義理がたい彼は、父の代りとして、当然のことのように私財のほとんどを投げ出した。ペル時代に築きあげた「宮々十二カ年の汗と脂の結晶は、このようにして消え去つたのである。その後、辛じて救われた本家で、黙々として農業を続けること四年、この間に二人の男の子が生れた。彼は、兄の方を隆之、弟の方を利えと名けた。

### 十四、ブラジル移住を決意

文化程度も低く、進歩性に乏しいこの山間僻地の農業が、自分の性に合わないことをしみじみ悟つていた彼の脳裏には、再び海外へ出たいという意欲が、沸々と湧きはじめていた。

一九二七年(昭和二年)五月といえど農村ではそろそろ田植準備で忙しい頃である。田起しのため駆使をしていた彼は、突然手にしていた鍬を力いっぽい地面叩きつけた。柄は折れて飛んだ。「おれはこんなせまくるしい社会では、突然手にしていた鍬を力いっぽい地面叩きつけた。柄は折れて飛んだ。」「おれはこんなせまくるしい社会で、一生は一生だ。おれには海外の方が性に合つているのだ。も一度海外へ出て頑張ってやるぞ。見ておれ」自分自身の心にそういう聞かせながら、「彼は再度渡航を決意したのである。その後、反対されるかもしれない」内心そう思つていた彼は、「あなたの行く処だら、たとえ前途にどんな苦難があろうとも、どこまでも一緒に！」と、けなげな答に、彼の決心はいよいよ固まつた。

彼の決意を知つた両親は、さすがに悲しんだ。幼い頃から他人の家へ奉公に出で、苦労をしどうしで一人前になつた彼を。一番孝をしてくれ、又一番たよりであつた常左に去られることは、両親にとっては、この上もない悲しいことであつた。

「もはや自分たちも年であり、こんど

こんど別れたらう、二度と生きて会ふ、一と  
はあるまい」と泣いて止める母に向つて  
彼は、「このまま自分がこの地にいたから  
とい、て、わが家の暮しはどうにもなら  
ない。自分は今一度海外に出て一生懲命  
に働き、必ずわが家を盛り返さなければ  
ならない」と淳々と説き慰めた。  
しかし、覚悟はできているとはいうも  
のの、こんどの海外渡航は、第一回ペル  
ーのときとちがつて、一家を挙げてのこ  
とであつて、彼の心の中に悲壯なものか  
あつた。行く先きをブラジル、農業移民  
とは決めたものの、もちろん引受けが決  
つていたわけではなく、一沫の不安があ  
つた。

しかし、万一の場合には、身につけた  
理髪の職を生かして、何とか切り抜けて  
みるという自信はあつた。しかし、何と  
いふても長女のみよが六歳、隆えが三歳  
、生れたばかりの利光、いずれも手どり  
ばかりの、いわば乱れ押しの最中である。  
者たちは身寄のない外国でたちまち路頭に迷  
うかも知れない。そんなこと考えると、  
どうしても自分片腕となつて働いてくれ  
る協力者が欲しかつた。そこで彼は、同  
村大川原の前田茂二郎の次徳市、  
当時十三歳へ妻の従弟に当つた。将来  
来長みよとめあわせること前提として養  
子に迎えた。これで家族構成はできた。  
次号へつづく

## 死 亡 通 知

実兄桑原竹次郎儀、去る三月廿六日和歌山県  
有田市糸我町の自宅に於て急逝いたしました。  
通知によりますと、脳卒中にて倒れ三日ばか  
り病臥し、そのまま静かに八十七歳の天寿を  
全ういたしました。

兄は和歌県移住組合の責任者として、バスト  
ス開植と同時に入植いたしました。

県人移住の先達として、いささか奔走させて  
頂きましたが、家庭の都合上帰国し、その後  
八回にわたり渡伯し、各位御訪問申上げ、ブ  
ラジル生活の実況並に御成功的様子を逐一県  
府当局に報告いたして居りました。

渡伯の都度皆様に大層御世話になり、御愛顧  
をいただきましたこと此の機会に併せて御礼  
申上げます。

右延引乍ら生前専知各位に謹んで御知らせいたします。

一九七〇年四月二十日

バストス、クロリア工区

桑原久次郎  
並に家族一同

各

位

パツリ俱楽部ミニソン

此の度當農業クラブ所有地へ学校口  
に當り貴殿より新品種ムロコッチ苗  
百本を試作用として御寄贈下さいま  
して、實に有難うございました。

担当者一同栽培管理につとめ貴意に  
沿いたいと存じます。  
一九七〇年四月廿日

御 礼

奥田民藏様  
クルベアグラデ ファルツーラ  
代表 豊島重幸

Fabrica de Granito  
Av. Rio Branco % C.Post.23. Fone 515  
ADAMANTINA, C.P.  
墓碑 石像 石燈籠  
日本式及びブラジル式  
石材 美術彫刻類 一切  
大西石碑工場  
大西文吉 郵函 二十三番  
電話 五一五番  
古い墓碑の修理もいたします  
アダマンチーナ市リオブランコ大通り  
から是非お出かけ下さい。

レガントナウチッコ・パウリモ

来る五月一日、十四時より

ビシーナのイナウグランシ

皆様の御協力の御蔭でビシーナが完成  
しましたので、そのイナウグランソンを兼  
ねワトゲン・ヒダンの披露を行います  
から是非お出かけ下さい。  
○四月中入会の方々も、右の抽籤に参  
加できますから、どしどし御申込み下  
さい。

追々ヴァガ整理中につき、会員外の方の入場は御遠慮願うことになります  
す故、御諒承下さい。

各

位

# おしらせ

## 盛業中の バル・ル

エン・ボーリョを  
売りります

何分手が足りませんので、盛業中の  
バトル、エン・ボーリョを売りだして  
存じます。

御希望の御方は御来談下さい

ヅック・デ・カシマス街、  
バトル・エン・ボーリョ

水口商店

場所 レカント・ナウチッコ、パツリー  
時間 午前十一時

会費(記念品代共)十五新クルゼイロ。

(婦人子供は、五クルゼイロス前)

発起人

西山中安彦・崎田春治一行  
豊島重幸・水馬章森下政春・松森正治

期日は追って週報誌上にて御知せいたします。

## 狂犬病予防注射実施について御知らせ

最近狂犬病の発生が多くため、当バストス市に於て狂犬  
予防法令を設けました。

これにより、バストス郡内の犬の所有者は、毎年一回市  
役所に登録し、狂犬予防注射を義務的に受けねばなりません。

そして、飼犬けいつでも首輪をつけ、且つ予防注射をし  
た証明の鑑札をつけねばなりません。

鑑札をつけていない犬は、六月中旬より市がその犬を捕  
獲し、一定の期間内(約七日)までに飼主が現われない  
場合は、屠殺処分することになります。

これで今回次のように登録及び予防注射の実施いたします  
ので、飼主は是非協力を御願いいたします。

一、期日、場所別表(裏面)の通り。  
二、頑丈な首輪を用意すること。

バストス市長

松原

雅

春

狂犬病は恐しい病気で、狂犬に噛まれて病気が一たん  
発生すると、犬、猫、馬、人間に到る迄必ず死亡し、  
助けける手段はありません。犬を放つておくと多くの人  
に迷惑を及ぼすので、お互に徳義を守りましょう。

AVISO  
DE PREFEITURA MUNICIPAL DE BASTOS  
Injecção preventiva contra Raiva

元ツツパン、ブラジル銀行支店長エルメス、

ゴーメス、バルボーザ氏は、皆様も御存知の  
様に、定年となり銀行界から引退されました。

エルメス氏の支店長時代あのバストス養鶏  
業及び農業の不況の時、絶大なる援助をして  
下され、其のおかげで無事に危機を乗り切る  
ことができたのは、エルメス氏に負う所大で  
あります。

うきましては、氏に今まで御世話をなつた  
方々により、御礼の意をかねて、一日エルメ  
ス氏をバストスに招待して、会食と共にしよ  
うと話がまとまりましたので、此のショラス  
コに御参加希望の方は、各巡回組合迄御申込  
下さい。

狂犬病予防注射日程

実施地区	期 日	実施場所
CIDADE I	AS 8a 11hs. 19-4/70	文化協会空地
" II	13a 17hs. 19-4/70	舞台
" III	8a 11hs 26-4/70	シャルディン 畑中
" IV	13a 17hs 26-4/70	"
V	8a 11hs 3-5/70	RUA Duque de Caxias
VI	13a 17hs 3-5/70	de R. Antonio João
①	20-4/70	巡回
②	21-4/70	"
③	22-4/70	"
④ Chacara	27及び28-4/70	"
⑤ Esperança	29- 4/70	"
⑥ Saude e U.I	30- 4/70	"
⑦ União II	1- 5/70	"
⑧ U.I. Fartura	2- 5/70	"
⑨ Bomfim	4- 5/70	"
⑩ Progresso	5- 5/70	"

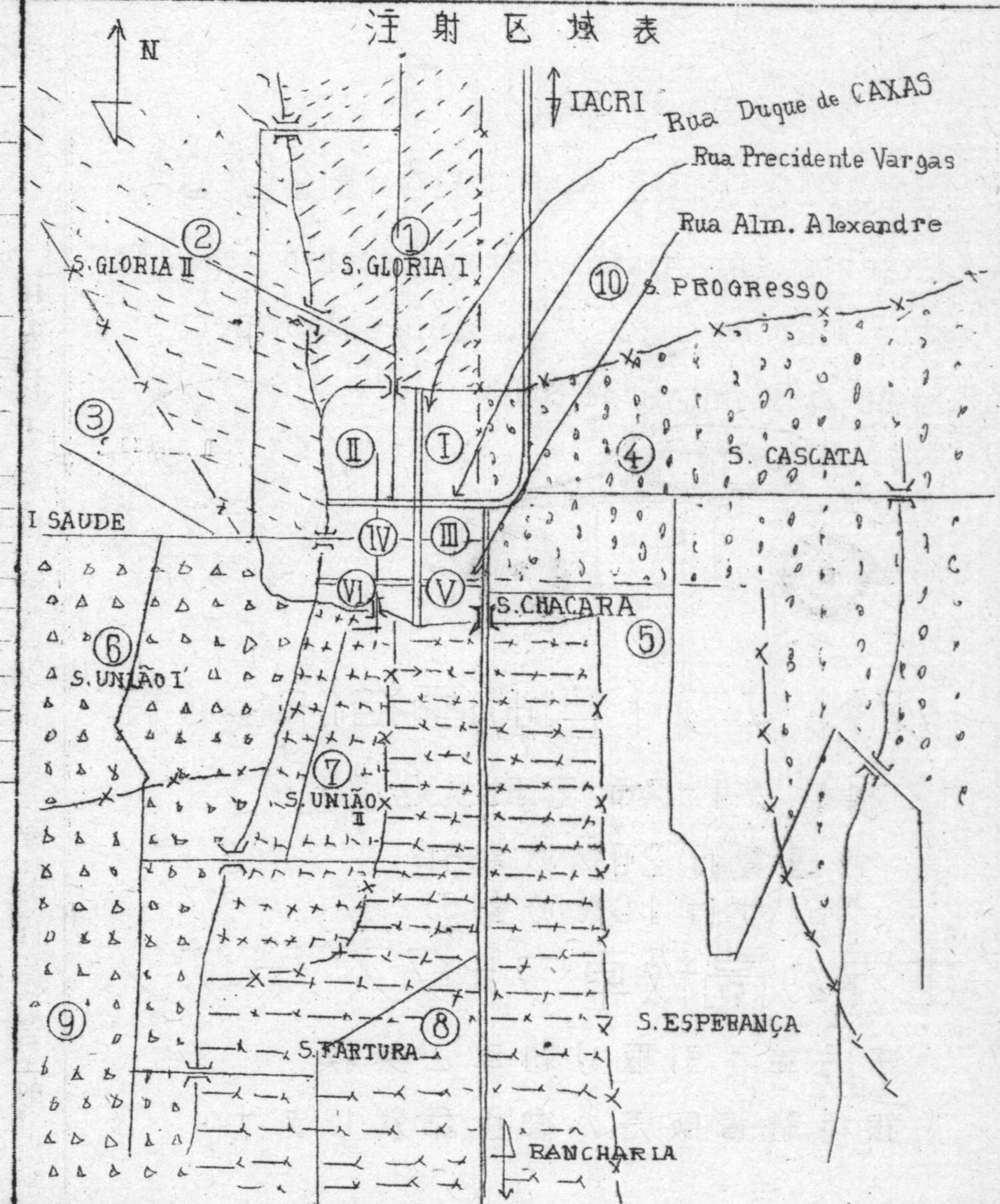
マップ  
道順は右図の通り巡回致します。

市防アビーゾ

- 1 その他期間内に出来なかものは五月十日前役前にて  
五月三日、シャカラ道、小林義氏前ルア九時から十一時迄。
- 2 ルニシッピオ以外の場所で御希望の方は市役所へ通知  
下さい。同條件にて出張いたします
- 3 必ず首輪を付けること。又クサリをつけること。

VETERINARIO T.USHIAMA

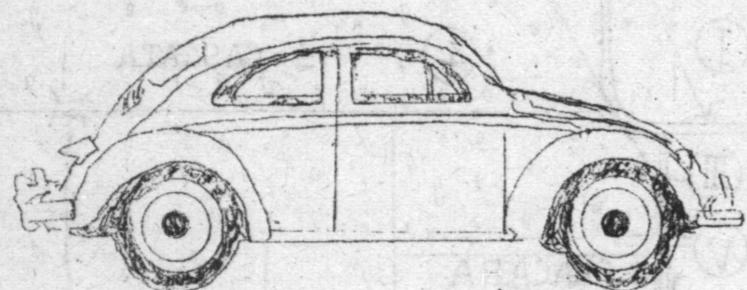
注射区域表



# CRUZAUTO

Osvaldo Cruz Automóveis LTDA.

Conserto em oficina terão desconto de 20% sobre mão de obra Aquisições das peças terão descontos de 10%



## クルザウト自動車有限会社

オズワルド クルース市 C.Postal 156

修理費は 20% の割引  
ペッサは 10% の割引

## 世界の高級車 ヴォクスワーゲン

中古車を引取り新車と交換

銀行融資販売の御世話を致します。

販賣部

四月二十八日(火)	二十九日(水)	五月一(木)	五月二(金)	五月三(土)	五月四(日)	五月五(月)	五月六(火)	五月七(水)	五月八(木)	五月九(金)	五月十(土)	五月十一(日)
立 松	立 松	立 松	立 松	立 松	立 松	立 松	立 松	立 松	立 松	立 松	立 松	立 松
松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹
天然色	天然色	東宝	天然色	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹	松竹
五月一(木)	五月二(金)	五月三(土)	五月四(日)	五月五(月)	五月六(火)	五月七(水)	五月八(木)	五月九(金)	五月十(土)	五月十一(日)	五月十二(月)	五月十三(火)
監督 橋幸夫	監督 森谷司郎	脚本 脚本	監督 森谷司郎	脚本 井平俊郎	原作 加山雄三	原作 岡田茉莉子	原作 川端康成	原作 岩下志麻	原作 田村二郎	原作 桜むつ子	原作 木村功	原作 成田三樹夫
橋幸夫	橋幸夫	由美かおり	橋幸夫	由美かおり	池内淳子	高峰三枝子	小畑 絹子	花沢徳衛	坂本スミ子	天知茂	万代峯子	加賀まり子
山村ミコ子	香山美子	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	藤田まこと	中村正和	三上真一郎	富永美沙子	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子
西夜とも八時	十四才	十四才	十五才	十五才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才
あすなろの梢に夷かに鳴らす愛の詩	魅力!	かぎ	かぎ	かぎ	かぎ	かぎ	かぎ	かぎ	かぎ	かぎ	かぎ	かぎ
恋する人の面影をすこせ、愛の陽炎にゆれる男と女	監督 野村芳太郎	心ゆたかに、きめこまやかに、新感覚で描く松竹伝統の傑作	脚本 野村芳太郎	脚本 井平俊郎	脚本 加山雄三	脚本 岡田茉莉子	脚本 川端康成	脚本 岩下志麻	脚本 田村二郎	脚本 桜むつ子	脚本 木村功	脚本 成田三樹夫
山村ミコ子	香山美子	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	富永美沙子	藤田まこと	中村正和	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子
由美かおり	高橋長英	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
西夜とも八時	十四才	十四才	十五才	十五才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才
バカラ色の一一人	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
この空のある限り	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
恋する人の面影をすこせ、愛の陽炎にゆれる男と女	監督 野村芳太郎	心ゆたかに、きめこまやかに、新感覚で描く松竹伝統の傑作	脚本 野村芳太郎	脚本 井平俊郎	脚本 加山雄三	脚本 岡田茉莉子	脚本 川端康成	脚本 岩下志麻	脚本 田村二郎	脚本 桜むつ子	脚本 木村功	脚本 成田三樹夫
山村ミコ子	香山美子	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
由美かおり	高橋長英	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
西夜とも八時	十四才	十四才	十五才	十五才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才
バカラ色の一一人	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
この空のある限り	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
恋する人の面影をすこせ、愛の陽炎にゆれる男と女	監督 野村芳太郎	心ゆたかに、きめこまやかに、新感覚で描く松竹伝統の傑作	脚本 野村芳太郎	脚本 井平俊郎	脚本 加山雄三	脚本 岡田茉莉子	脚本 川端康成	脚本 岩下志麻	脚本 田村二郎	脚本 桜むつ子	脚本 木村功	脚本 成田三樹夫
山村ミコ子	香山美子	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
由美かおり	高橋長英	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
西夜とも八時	十四才	十四才	十五才	十五才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才
バカラ色の一一人	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
この空のある限り	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
恋する人の面影をすこせ、愛の陽炎にゆれる男と女	監督 野村芳太郎	心ゆたかに、きめこまやかに、新感覚で描く松竹伝統の傑作	脚本 野村芳太郎	脚本 井平俊郎	脚本 加山雄三	脚本 岡田茉莉子	脚本 川端康成	脚本 岩下志麻	脚本 田村二郎	脚本 桜むつ子	脚本 木村功	脚本 成田三樹夫
山村ミコ子	香山美子	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
由美かおり	高橋長英	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
西夜とも八時	十四才	十四才	十五才	十五才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才
バカラ色の一一人	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
この空のある限り	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
恋する人の面影をすこせ、愛の陽炎にゆれる男と女	監督 野村芳太郎	心ゆたかに、きめこまやかに、新感覚で描く松竹伝統の傑作	脚本 野村芳太郎	脚本 井平俊郎	脚本 加山雄三	脚本 岡田茉莉子	脚本 川端康成	脚本 岩下志麻	脚本 田村二郎	脚本 桜むつ子	脚本 木村功	脚本 成田三樹夫
山村ミコ子	香山美子	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
由美かおり	高橋長英	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
西夜とも八時	十四才	十四才	十五才	十五才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才
バカラ色の一一人	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
この空のある限り	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
恋する人の面影をすこせ、愛の陽炎にゆれる男と女	監督 野村芳太郎	心ゆたかに、きめこまやかに、新感覚で描く松竹伝統の傑作	脚本 野村芳太郎	脚本 井平俊郎	脚本 加山雄三	脚本 岡田茉莉子	脚本 川端康成	脚本 岩下志麻	脚本 田村二郎	脚本 桜むつ子	脚本 木村功	脚本 成田三樹夫
山村ミコ子	香山美子	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
由美かおり	高橋長英	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
西夜とも八時	十四才	十四才	十五才	十五才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才
バカラ色の一一人	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
この空のある限り	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
恋する人の面影をすこせ、愛の陽炎にゆれる男と女	監督 野村芳太郎	心ゆたかに、きめこまやかに、新感覚で描く松竹伝統の傑作	脚本 野村芳太郎	脚本 井平俊郎	脚本 加山雄三	脚本 岡田茉莉子	脚本 川端康成	脚本 岩下志麻	脚本 田村二郎	脚本 桜むつ子	脚本 木村功	脚本 成田三樹夫
山村ミコ子	香山美子	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
由美かおり	高橋長英	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
西夜とも八時	十四才	十四才	十五才	十五才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才	十六才
バカラ色の一一人	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
この空のある限り	由美かおり	高橋長英	中村伸郎	園井啓介	香山美子	中村伸郎	三上真一郎	成田三樹夫	小沢昭一	万代峯子	香山美子	高橋長英
恋する人の面影をすこせ、愛の陽炎にゆれる男と女	監督 野村芳太郎	心ゆたかに、きめこまやかに、新感覚で描く松竹伝統の傑作	脚本 野村芳太郎	脚本 井平俊郎								